

Disc-1

①おやじの唄 1975/06 (No.028)3'16"

詩/曲:八木たかし Key=Em

※俺のおやじは唄が好きで 自慢そうに聞かせてくれた
俺のおやじは唄が好きで 自慢そうに俺に話すんだ

戦争の中で過ごした青春を 唄うおやじのその唄は
やけに悲しく聞こえるけれど 何処か似ている俺の唄と

※
戦争は終わり忘れられたが 今もおやじの唄の中に
いつか平和な自由の日々を 願って死んだ友の姿が

戦争は嫌だと言えないままに きっとおやじは願ってた
そっと目を閉じ首振りながら 唄う姿が俺に唄えと

②この道 1976/06 (No.052)3'14"

詩/曲:八木たかし Key=F#m(スタジオ・ライブ)

※この道を 何処までも 歩いて行こう
この道を 何処までも 歩いて行こう

私とあなたが 生きる道 強い仲間に 支えられた
この道を 何処までも 歩いて行こう
※
今日と明日を 結ぶ道 長い歴史に 支えられた
この道を 何処までも 歩いて行こう

私とあなたが 創る道 全てを乗り越え 手を繋ぎ
この道を 何処までも歩いて行こう！
※

③戦 跡 1977/02 (No.057)7'34"

原詩:ひとり たみへい 補詩/曲:八木たかし Key=F#m

(語り)声にならない叫びを 地に突き刺すように
息絶えた娘たちの 聞こえてこないか 歌声
真っ赤に炸裂する 数時間前までは
やわらかに微笑んだ 笑顔の中で
娘たちが うたを唄っていた ところだ
右手に見える 小高い丘の
陽の届かない 繁みの下の 草原のそこは
街が 真っ赤に 焼ける ほんの少し前まで
やわらかに 微笑んだ 笑顔の中で
娘たちが うたを唄っていた
吹き上がる 炎の 嵐の中で
握りしめられた 拳の意味も知らず
娘たちは 倒れてた
※聞こえてこないか 娘たちの 声にならない うた声が
※

(語り)吹き上がる 炎の中で 握りしめられた
拳の意味も知らず 煉瓦の中へ埋もれていった
娘たちの 伝わってこないか 叩き潰された生命の重み
君が今歩いて来た細い路地も 家並みを通り過ぎると
向こうに続いているアスファルト道路も 何処もかも
娘たちがはいずり 焼け爛れた土の上
爪をたて掻き塗り しがみつき 火達磨となって
転がり回っていたところだ その街の何処もかも
君が 今歩いて来た 細い道路にも
向こうに続く 黒いアスファルトにも
娘たちが はいずり回っていた
焼け爛れた土に 爪を立てながら 掻き塗りながら
火達磨になって 娘たちは転がった
※伝わってこないか 娘たちの 叩き潰された生命が
※

吹き上がる 炎の 嵐の中で
握りしめられた 拳の意味も知らず 娘たちは息絶えた

④紙ひこうき 1977/03 (No.059)3'16"

原詩:久保けい子 補詩/曲:八木たかし Key=A(野外ライブ)

あなたの作った紙ひこうき あんまり上手じゃないけれど
その小さな手が一生懸命飛ばして(作っていた)
※ホラホラ飛んで行くよ 小さな夢を乗せて
ホラホラ飛んで行くよ あなたの紙ひこうき
あなたの飛ばした紙ひこうき グルグル回っていたけれど
その小さな手が一生懸命飛ばしていた
※
空でお日様キラキラと 輝きながら呼んでいる
その小さな手が何度も何度も飛ばしていた
※
※
※

⑤風よ伝えて 1978/10 (No.081)4'13"

原詩:水野麻子 詩/曲:八木たかし Key=A

あれから10年 私は生きた 追いつめられた 暮らしの中で
立ち上がっても 見えない光 叫んでみても 動かぬ身体
風に泣き 渴いて行った 眠れない日々を
※風よ伝えておくれ 新しい風よ
この世界を駆け巡る 自由の風よ
季節のたびに 生まれ変わる 垣根の薔薇は 蜂と戯れ
風船みたいに 壊れやすい そんな明日に 望みも無くし
話す事も 聞く事も 許されぬ友に
※

虫けらでなく 人間らしく 泣かずに生きて行きたいと
誰よりも願う 私と母に 失うものは 何もないけど
今祈り 願いを込める ひとつのうたを
※
※

⑥ゆ き 1979/12 (No.098)4'29"

原詩:永口和世 補詩/曲:八木たかし Key=Eb

※また、冬がやって来た 何度目の冬やろか
窓の外にはゆきが降る 真っ白なゆきが降る
近所の子どもが、楽しそうに走り回る
その声に母ちゃんの、涙思い出す

母ちゃん、私も遊びたい 皆と一緒に遊びたい
ゆきの中を一度だけ 走り回りたく
靴なんか いらへん 裸足でええから
この足で真っ白な、ゆき踏んで見たい

母ちゃん、何で動かん のこの足何で動かん の
走りたい走りたい思たかて この足動かへん
動かん 足なんか もういらへん
この雪に埋もれて 死んでしまいたい

母ちゃん、私のほつぺたを思いきりぶたはつた
目には涙が光ってた 私も泣いてしもた
母ちゃん、ごめんな 私頑張るよ
この雪が解けたら、春やもん

※
母ちゃん、ごめんな 私頑張るよ
この雪が解けたら、春やもん

⑦サヨナラにいちゃん 1980/01 (No.101)4'22"

原詩:北沢真理子 詩/曲:八木たかし Key=Cm

にいちゃん ありがとう ぼくを ずっと 抱いてくれて
でも ぼくは もう死ぬんだ もう 食べ物はいらない
母さんと はぐれた時から いつもお腹空かしてた ぼくに
母さんの 名前を覚えてくれた ぼくが4つだって教えてくれた
いつも ぼくを 抱いてくれた にいちゃん ありがとう

にいちゃん 生きてよ ぼくの方まで 生きてよ
ぼくが 死んで 一人になっても 行き続けて
にいちゃんが にっこり笑うよう ぼくが死んだら 風になって
にいちゃんの 周りを駆抜けて 田んぼに稲を 山には木の実を
沢山付けてあげるから にいちゃん 生きてよ

にいちゃん 泣かないで たった4つで死んだからって
おなかがすいて 死んだからって 何も知らずに 死んだからって
にいちゃんが 側に居たから ぼくは いつでも 幸せだったよ
※にいちゃん 早く大きくなって 子どもが飢えて 死なない世界を
ぼくらのように ならない世界を にいちゃん つくってよ
※

⑧我 古 里 1980/08 (No.113)4'02"

詩/曲:八木たかし Key=G (ホール・ライブ)

001
白壁屋敷 葎屋敷 川面に揺れる 蒼柳
小雨降る中 傘も無く 道行く人は 何処の人
ここは倉敷 我古里 ここは倉敷 我古里
002
高い山から 見下ろせば 広がる海に 小島が揺れる
小船 大船 黒い波 知っているのか カメ啼く
ここは 下津井 我古里 ここは 下津井 我古里
003

煙色した 空の下 機械の回る音がする
朝から晩まで休みなく たまには見たいよ青空が
ここは 水島 我古里 ここは 水島 我古里
004

あの山越えて谷越えて 昔は D51 伯備線
お城と川に囲まれて 山からお猿がコンニチハ
ここは 高梁 我古里 ここは 高梁 我古里
005

夕暮れせまる城下町 天下の楽園従えて
勤め帰りのネオン街 路面電車は何処へ行く
ここは 岡山 我古里 ここは 岡山 我古里

006
海と山に囲まれた ちっちゃなちっちゃなこの国を
生まれ育った古里と 呼べるかあなたは大声で
ここは 日本 我古里 ここは 日本 我古里
007
誰がどんなに壊そうと 誰がどんなに唄おうと
たったひとつの古里を 愛するあなたがいる限り
ここは 古里 我古里 ここは 古里 我古里

⑨See You Again 1981/09 (No.126)4'13"

詩:永口和世/曲:八木たかし Key=C

いくつもの道があり いくつもの人が居る
それぞれの道を 歩き始めても
いつの日にか まためぐりあう
※See You Again 忘れないよ
See You Again 君との出会い

どんな苦しみも どんな喜びも
流れる涙が 同じように
生きているから まためぐりあう
※

あふれ出る涙が 熱いなら
もう一度だけ ひとつになれ
つなぐその手に 愛は生まれる
※
※

⑩あした天気になあれ 1982/02(No.128)5'05"

詩:堤 史/曲:八木たかし Key=A

きっと今日こそ 何かいいことありそうな
そんな気がする 朝なんだ
先生が窓に書いた その顔が似ていた
二歳になったら 迎えに来ると 言った母ちゃんに
(語り)「でも、いいんだ」「淋しくなんかないよ」
「友だちいっぱい いるもん」「母ちゃんのない」
「友だちだって いるもん」

きっと今日こそ 何かいいことありそうな
そんな気がする 昨日の夕焼けだった
空いっぱい赤い雲が ぼくの顔見つめて
約束したんだ 待っているよ 夕焼け雲にいつまでも
(語り)父ちゃん言った「お前が生まれて子どもが6人」
「父ちゃん一人の稼ぎじゃあ、とても8人食えないって」
「お前が、二歳になるまでには…」
「借金返して…迎えに来るから」って…

きっと今日こそ 何かいいことありそうな 詩/曲:八木たかし Key=D

そんな気がする 朝なんだ
新しい服を着せられて 面会室に行った
新しい父ちゃん 新しい母ちゃん 笑ってオモチャをくれた
(語り)「ぼく、もう泣かないよ」「おりこうさんでいるよ」
「可愛がってもらうよ」「早く借金なくなるように」
「お月様に、お願いするよ」

ぼくの 友だちにも いっぱい良い事あるように
みんなの みんなの明日 きっと天気になるように
※ウララ ウラララ あした天気になあれ
※
※
※

⑪今、唄うこと 1983/02(No.142)2'52"

詩/曲:八木たかし Key=A

青い空がほしい 青い海がほしい
青い山がほしい 青い春がほしい
※今、唄うことが 生きていること
今、唄うことが 生きて行くこと

恋人がほしい 優しさがほしい
喜びがほしい 友だちがほしい
※

前を向いてほしい もう一度見てほしい
この国を見てほしい 目をそむけないで
※
※

⑫The Day Before 1985/07(No.150)3'06"

原詩:坪井宗康 詩/曲:八木たかし Key=F#m

風が吹く 木がそよぐ 木の葉が舞い踊る
人々が 歩いている 電車が走って行く
※昨日から 続いて来た 明日へと続いて行く
ありふれた いつもの 私の街
The Day Before The Day Before あの日の 広島のように
The Day Before The Day Before あの日の 広島のように

若者が 歌っている 若者は恋をする
子どもたちが 走っていく 母親が追いかける
※

空を飛ぶ 小鳥たちも 海で泳ぐ魚たちも
野原に咲く 小さな花も みんな生きている
※

⑬その時のために 1986/01(No.160)4'07"

詩/曲:八木たかし Key=D

今だから 唄いたいうたがある あまりに世界が 傷付き過ぎたから
いつの日か 手を取り合って 共に生きる その時のために
※ひとつは、平和 ひとつは、自由 ひとつは、愛
そして、希望 唄い続ける その時のために

悲しいことが 多過ぎるけれど 涙だけじゃ 明日は見えない
さあ唄おう 心を開いて 今を生きる 我らのうたを
※

子どもたちの 笑い声が走る 夢を語る 若者の瞳が
この街に輝き溢れ 幸せな日々 その時のために
※

やがて生命の 終わるその時に 始まる生命に 笑顔で唄いた
この大地を踏み締めながら 両手を高く 力の限り
※

⑭一枚のハンカチ 1986/03(No.161)2'34"

詩/曲:八木たかし Key=Am

※この一枚のハンカチを あなたに贈ります
いつまでも大切に あなたの胸に
海の好きなあなたには 山の好きなあなたには
それぞれの香りを受けて あなたに贈ります
この一枚のハンカチで 全ての悲しみを
拭い去ることが 出来るなら
いつも笑顔を忘れずに 前を向いて歩けるのに
そんな想いをこめて あなたに贈ります

もしも涙に出会ったら 思い出して下さい
この街で唄ってた 小さな音楽館(喫茶店)
※

⑮涙に向かって 1987/03(No.172)3'15"

詩/曲:八木たかし Key=Am(SE 波)

今日が沈み 春が過ぎて 夏が静かに燃えて
秋は枯れて 冬に埋もれて また春が過ぎても
唄い続けた そのうたは 今も今も あなたと生きる
※唄え友よ 唄え友よ 生命の限り
唄え友よ 唄え友よ 涙に向かって

誰を想い 何を悩み うつむいているのですか
顔を上げて もう一度だけ 周りを見てごらん
鏡の向こうに 光る涙は 今も今も あなたと生きる
※

人は海に 生まれ出て 空の下で生きて
いつの日にか 土に眠り また歴史が始まる
やがて甦る その生命は 今も今も あなたと生きる
※ ※

Disc- II

① ゆっくり ゆっくり 1987/05(No.175)3'21"

原詩:永口和世 補詩/曲:八木たかし Key=A

ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり デコボコ道を 歩いていたんや～
昨日の雨で滑って転んだら 小さな花見つけた～
今はお陽さん 当たらへんけど
いつかお陽さんに手が届くよう 大きく大きくなるんやと～
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたら小さな花見つけた
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたらあなたに巡り会えた

ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり デコボコ道を 歩いていたんや～
私の前を小さなアリさんたちが 並んで通り過ぎた～
一人じゃあ何にも 出来へんけど
大きなケーキをみんなでかついで いっしょう懸命運んでた～
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたら小さな生命見つけた
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたらあなたに巡り会えた

今度は石につまずき転んだら 青い空見つけた～
白い雲が動いてた
早くホラ起き上がりなさいと 緑の風がささやいた～
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたら心に青空見つけた
ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり 歩いていたらあなたに巡り会えた

② 空に憧れ 1987/08(No.177)3'56"

詩/曲:八木たかし Key=Cm

幼い 頃から いつも夢見た いつか きっと 空を飛ぶんだと
そして 何度も 空を飛んだけど 還る所は 同じ土の上
※ここで生きよう ここで唄おう ここで笑おう ここに眠ろう
空は 泣かない どんな時でも 悲しくなると 雲に隠れた
そして 何度も 笑って見せたけど 涙流れて 同じ土の上
※

いつも 心は 空にあこがれ 優しい言葉 探し続けた
そして 何度も 唄い続けたけど 眠る所は 同じ土の上
※ ※ ※

③ 私の孤独 1988/10(No.193)4'24"

詩/曲:八木たかし Key=Am

※人は 誰かを 待ち続け 人は 一日を 終わるように
人は 何かを 待ち続け 人は 人生を 終わるように
人は人に出会い 人と語り人と唄い
人は夢に出会い 人を信じ人を愛し
人は明日を待ち続け 眠るのか
※
鳥は空に出会い 雲と遊び風と唄い
鳥は自由に出会い 空を走り空に染まり
鳥は明日を待ち続け 眠るのか

花はいつも独りで そこに咲いて居るだけで
花はいつも笑顔で そこに咲いて居るだけで
花は何を待ち続け 眠るのか
※

④ ことばを下さい 1989/06(No.205)3'21"

詩:田辺和雄/曲:八木たかし Key=Am

※誰か私に言葉を下さい 誰か私に言葉を下さい
夢の中でうなされても 目覚めた朝は同じ世界
電話のベルに響える日々 あなたに答える言葉ばがほしい
※

幼い頃は無口な子でも 今はあなたと同じ世界
心を文字に記した紙を 手渡すたびに涙が落ちた
※

飾り言葉も恥ずかしさも 澄み切った声もいらぬから
あなたと話あなたと唄う あなたに伝わる言葉がほしい
※
誰か私に言葉を下さい

⑤ 我が人生に悔いはない 1989/12(No.209)3'19"

詩/曲:八木たかし Key=G

※我が人生に悔いはない いつ果てるとも唄えれば
花より綺麗な君に憧れ 若き日の夢は風に吹かれて
ただ今唄う心の中に 広がりに広がる青空

別れ行く人に手を振りながら 出会った人と語る明日も
願いはひとつ いつも幸せ 今も昔もこれからも
※

限りある生命が限り無い夢を 乗り越えた時人は自由さ
恐れるものも何も無いのさ 時の過ぎ行くまに

何より自由を求め続けて 愛したこの国唄い続けた
この国としか呼べないまに 旅立ったあなたを追いかける
※
※

⑥ 孤独な Runner 1990/03(No.211)4'04"

原詩:田辺和雄 補 詩/曲:八木たかし K=Em

※僕はランナー孤独なランナー 今のこの時 胸に抱きしめて
まだ見ぬ明日に めぐり合う喜び 感じながら 走る
道端の草も 息づいていた 過ぎて行く景色も 輝く
額を流れる 眩しい光が「諦めるな」「生きるんだ」

※
真暗闇で 何にも見えないよ 心も身体も 傷付き
その時 聞こえた あいつの歌声 立ち止まるな進むんだ

遥かな道に 信じるものがある 限り無い生命の 全てが
何処まで 行っても ゴールは無いのさ 走り続けるこの道を

※

⑦ みんな違ってみんないい 1993/05(No.232)2'20"

詩:金子みすず 曲:八木たかし Key=C(音声変換)

私が両手を広げても お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように 地面(じべた)を早くは走れない
※みんなちがってみんないい みんなちがってみんないい

私が身体を揺すっても 綺麗な音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように 沢山の歌は知らないよ

※
鈴と小鳥とそれから私 みんなちがってみんないい

⑧ アイの歌 ラララ 1993/08(No.234)4'25"

詩/曲:八木たかし Key=G(ラジオ・ノイズ入)

※ランラララ ランラララ……

又ひとつ 街が消えた 絶え間ない 争いに
明け暮れる この世界を 止めようも無く 流れる涙
誰が良いとか 悪いとかじゃなく
信じ合う 何もないのが 悲しいのさ

消えた街に 繋がる空が 夕焼けに 染まる頃
家路を急ぐ 車の中に 流れるアイの歌 口ずさむ

※

あの青い 空から見れば ほんの小さな この地球の
数え切れない 生命たちよ お前の瞳は 輝いているかい

強い者たちが 弱い者たちを
踏みつけて 生きている 今は昔さ

目を開けても 見えないことも 目を閉じると 見えることがある
真実はいつも 心の中で 忘れかけていた 歌を口ずさむ

※

夢が無い 希望が無い もう少し 時間が有ったら
愛が無い 自由が無い もう少し 心を込めて
無いものねだりの 子守唄じゃ

この海も この山も 越えられないのさ
生命あるものの 歴史は繰り返す 生まれては 又年老いて

何度も何度も 繰り返す それでもアイの歌 口ずさむ

※

何度も何度も信じては 何度も何度も裏切られ
何度も何度も繰り返す それでもアイの歌口ずさむ

※ ※

⑨ 風になりたい 1993/10(No.236)6'12"

原詩:平野由理 詩/曲:八木たかし Key=G(ホール・ライブ)

※風が吹いている 黙って吹いている
ひとつひとつの 色をみせながら
ゆっくりと 包み込む 時の流れの中

春には 野に咲く花や 小鳥たちと 語り合い
夏には 子どもたちと 戯れて 生きている
母の 眼差しのような 風になりたい

※

秋には 落ちてゆく 木の葉の はかなさを
冬には 人の間を 足早に 駆け抜けて

明日を 温め唄う 風になりたい

※

優しい 人の心の中 中に在る 風車
悲しい 人の歴史の中 中に在る 風車

いつも 回し続ける 風になりたい

※(※ ※ ※)

⑩ 何にもない空 1995/01(No.243)4'45"

詩/曲:八木たかし Key=D

全てを 語り尽くす言葉など 何処にも 無いから ここに立っている
生きて来た 全てがここに有るから 私は 今ここに立っている
街に溢れる人 野山に揺れる緑 海よりも深い 何にもない青い空

(海よりも深い 今日の青い空)
生れた時には 知らない昔が だんだん遠くまで 見えて来たから

生命より長い 歴史を背負って 私は 今ここに立っている
鳥や雲のように 風や川のように 流されるのか 今日の空の下

(流されるのか 何にも無い空の下)
悲しい時には 悲しいままに 伝える勇気が 明日を照らす

涙が心を 溢れ出す日も 私は きっとここに立っている
走る子どもたちに 泣いている子どもたちに

手渡したいのは 何にもない青い空
(手渡したいのは 今日の青い空)

⑪ 空 1995/11(No.247)4'46"

詩:永口和世 補詩/曲:八木たかし Key=G

流れる雲を 追いかけてながら 君の笑顔 探してた
このごろ 無性に 会いたくなるんだ 会えるはずない 君に

同じあの空を 目指して 同じ思い分け合って
疲れ知らずに何処までも 突っ走っていた 君の姿

君の生きていたことが 心の中で大きくなる
もし今も君が ここにいたならば どんな夢を 語り合おうだろう

あの頃と 同じに 話してくれるだろう 目を見開いて 必死に
※君と見上げたあの空は 今も心に青く

時代の風が流れても 思い出だけにほしたくない
果てなく高い空だけど 僕らの青春だから

君がいて 僕がいて 友だちがいて 見上げた同じあの空を
新しい仲間と 今見上げながら 君のことを 話してる

※ ※

⑫ そのままで 1997/07(No.257)5'29"

詩/曲:八木たかし Key=D

山を見上げて 山になり 花を見て 花になる
空を見上げて 鳥になり 海を見て 魚になる

※そのまま そのままで 青いままで
いつまでも いつまでも 青いままで

雨が降る日には 雨になり 風の日には 風になる
日差しの中で こぼれる笑顔 明日を 待ちつづける

※

春よそんなに あわてないで 夏よ さわがないで
秋よ冬よ もう泣かないで 僕らは ここに居る

※

暮らしがあって 夢があって 働く 僕らが居る
父と母と 妹が居て 働く 仲間が居る

※

※

⑬ 旅をするメッセージ 1998/07(No.269)3'19"

原詩:上地香 詩/曲:八木たかし Key=A

君の心の まばたきや 君の心の 声援や
君の一番 伝えたかったこと 君の優しさ 暖かさ

※うたに会い、君と会い、知らない君を感じて
いつの間にか ひとつになって、旅をするメッセージ

泣いているのか 笑っているのか 声にならない 声を出して
生きてることの その喜びを 今唄う 力強く

※

うたは全てを 見つめてる うたは全てを 包み込む
人の心の 奥底まで 響き渡り 微笑む

※

※

⑭ みつけて 2001/04(No.288)3'28"

詩:平田百合子/曲:八木たかし Key=D

※みつけて下さい 小さな生命
みつけて下さい ちっぽけな生命

明日へと 流れ行く 語り合いの中に
通り過ぎる 道端に 校舎の影に

※

その中に きっと私が 隠れています
飾りきれない 私が きっと隠れています

みつけたら ゆっくりと 微笑んで下さい
もうそれで 十分ですから それで十分ですから

※

ちっぽけな生命

⑮ 母の手紙 2007/07(No.309)6'25"

詩/曲:八木たかし Key=C#m

「お元気ですか?」「一人暮らしは…」
「…如何ですか?」「もう慣れましたか」

思い掛けない 母からの 懐かしい手紙に
忘れかけた 遠い 昔が溢れ出し

見慣れた文字なのに にじんで読めない

父は優しく 僕と弟には
借金抱えて 仕事も探す日々

お酒を飲んでは 暴れだす 父を罵る
母の言葉に いつも 奮える弟の

耳を両手で押さえ 目を閉じうずくまる

父の居ない夜 あなたは「シツケ」だと
泣きじゃくる弟の 口を塞ぎながら

逃げようとする 僕の足を 掴んで離さない
「あんたらのために 別れられない」

髪を振り乱して あなたは叫んだ

「ごめんなさい」 良い子になるから
あなたに褒められ 抱き締められたかった

叱られても 恐くても どんなにぶたれても
ここに産んだのは あなた ですから

たとえ殺されても 傍に居たかった

「ありがとう」 僕を殺さないで(くれて)
「ありがとう」 弟を殺さないで(くれて)

もう一度 あなたのお腹に 戻れたら始めから
やり直せる 気がする だからもう謝らないで

僕も振り返らない 生きていて良かった

読み返せない 捨てられない 燃やした手紙の
白い煙が 一筋 風に揺れながら

夕焼け空に今日も にじんで消えない

「お元気ですか?」「一人暮らしは…」
「…如何ですか?」「もう慣れましたか」

⑯ いい夢 みてね 2003/07(No.295)3'13"

詩:本田ふみ/曲:八木たかし Key=G(SE オルゴール)

いいゆめ みてね かなしいゆめとか
さびしいゆめとか こわいゆめは みないよにね

うれしいゆめとか たのしいゆめとか
「よかった」という ゆめとか 「ありがとう」という ゆめをみてね

じゃあ、おやすみなさい
ほんとにほんとに おやすみなさい ぼーい ぼーい